



安全データシート HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, BULK

項目1：化学品及び会社情報

1.1. 製品特定名

| | |
|--------|--|
| 製品名 | HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, BULK |
| 製品番号 | MCC-SPRL, MCC-SPRG, MCC-SPRP, MCC-SPRD, MCC-SPRGL, MCC-SPRGG |
| 別名、商品名 | "SPR - SUPRCLEAN Nonflammable Flux Remover" |

1.2. 化学品の推奨用途及び使用上の制限

| | |
|---------|------|
| 特定された用途 | 洗浄剤。 |
|---------|------|

1.3. 安全データシートの供給者の詳細

| | |
|-----|--|
| 供給者 | MICROCARE EUROPE BVBA VEKESTRAAT 29 B11 INDUSTRIEZONE 'T SAS 1910 KAMPENHOUT, Belgium Phone +32.2.251.95.05 Fax +32.2.400.96.39 |
| 製造者 | MICROCARE CORPORATION 595 John Downey Drive New Britain, CT 06051 United States of America CAGE: OATV9 Tel: +1 800-638-0125, +1 860-827-0626 Fax: +1 860-827-8105 techsupport@microcare.com |

1.4. 緊急連絡電話番号

| | |
|----------|---|
| 緊急連絡電話番号 | CHEMTREC +1 703-741-5970 (from anywhere in the world) |
|----------|---|

項目2：危険有害性の要約

2.1. 化学物質又は混合物の区別

| | |
|----------|--|
| 物理化学的危険性 | 区分外 |
| 健康有害性 | 急性毒性 区分4 - H302 |
| 環境有害性 | 水生環境有害性、慢性毒性 区分3 - H412 |
| 健康有害性 | 長期にわたりまたは反復して皮膚に接触すると刺激、発赤および皮膚炎を引き起こすおそれがある。軽度の皮膚炎、アレルギー性皮膚発疹。 |
| 環境有害性 | 製品は水生生物に対して有害かつ水生環境中で長期継続的悪影響を引き起こすおそれのある物質を含む。 |
| 物理化学的危険性 | 蒸気は空気より重いので、床に沿って移動し容器の底に蓄積するおそれがある。ガスまたは蒸気は呼吸に必要な酸素に置き換わる（窒息剤）。 |

2.2. ラベル要素

HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, BULK

絵表示



注意喚起語

警告

危険有害性情報

H302 飲み込むと有害。

H412 長期継続的影響によって水生生物に有害。

注意書き

P273 環境への放出を避けること。

P280 保護手袋 / 保護衣 / 保護眼鏡 / 保護面を着用すること。

P305+P351+P338 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

P331 無理に吐かせないこと。

P332+P313 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断 / 手当てを受けること。

P337+P313 眼の刺激が続く場合：医師の診断 / 手当てを受けること。

含有物

トランス - ジクロロエチレン (trans-DICHLOROETHYLENE)

項目3：組成及び成分情報

3.2. 混合物

| | |
|--|---------|
| トランス - ジクロロエチレン (trans-DICHLOROETHYLENE) CAS番号: 156-60-5 | 60-100% |
| 分類 引火性液体 区分2 - H225 急性毒性 区分4 - H332 水生環境有害性、慢性毒性 区分3 - H412 | |
| 1,1,1,2,2,3,4,5,5,5デカフルオロペンタン (1,1,1,2,2,3,4,5,5,5-decafluoropentane) CAS番号: 138495-42-8 | 10-30% |
| 分類 水生環境有害性、慢性毒性 区分3 - H412 | |

全ての危険有害性情報の全文は項目16に示されている。

Composition

項目4：応急措置

4.1. 応急措置の説明

一般情報

被災者に意識がない場合は、口から何も与えてはならない。無理に吐かせないこと。意識を喪失した者は横向きの回復体位に寝かせ、呼吸ができることを確認する。呼吸が呈している場合には人工呼吸を行うこと。

吸入

被災者を空気の新鮮な場所に移して暖かく保ちながら呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸が困難な場合には適切な訓練を受けた人員が酸素投与を行って被災者を補助してもよい。

経口摂取

無理に吐かせないこと。口を水で十分にすすぐこと。多量の水を飲ませること。医師に具体的な診断を求めること。

HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, BULK

| | |
|------|--|
| 皮膚接触 | 汚染された衣類を取り除き、皮膚を水で十分に洗うこと。 |
| 眼接触 | コンタクトレンズがあれば取り外し顔を大きく広げること。少なくとも15分間洗い続けること。医師に具体的な診断を求めること。 |

4.2. 急性症状及び遅発性症状の最も重要な徴候症状

| | |
|------|---|
| 一般情報 | 記載されている症状の重症度は濃度および暴露の長さに依存して変化する。 |
| 吸入 | 蒸気は、頭痛、疲労、めまいおよび吐き気を引き起こすおそれがある。呼吸困難。上気道刺激。鼻および喉の重篤な刺激。 |
| 経口摂取 | 胃痛または嘔吐を引き起こすおそれがある。眠気、仮性めまい、見当識障害、真性めまい。 |
| 皮膚接触 | 長期にわたりまたは反復して皮膚に接触すると刺激、発赤および皮膚炎を引き起こすおそれがある。 |
| 眼接触 | 眼および粘膜の刺激。眼を刺激する。過剰暴露に続いて生じる症状には以下が含まれる場合がある：発赤。痛み。 |

4.3. 必要に応じた速やかな治療と必要とされる特別な治療の指示

医師に対する特別な注意事項 特定の推奨事項はない。懸念がある場合には、直ちに医師の手当てを受けること。

項目5：火災時の措置

5.1. 消火剤

適切な消火剤 製品は可燃性/引火性でない。周辺火災に適した消火剤を使用すること。

5.2. 化学品から生じる特定の危険有害性

| | |
|----------|--|
| 特有の危険有害性 | Neutral |
| 有害燃焼副産物 | 加熱すると次の生成物を生じるおそれがある：毒性および腐食性のガスまたは蒸気。熱劣化または燃焼により、酸化炭素及び他の毒性ガスまたは蒸気を放出することがある。炭素酸化物。窒素酸化物。 |

5.3. 消火を行う者の保護

消火活動中の保護措置 リスクを伴わずに対処できるなら容器を火災区域から移動させること。水スプレーを使用して熱にさらされた容器を冷却すると共にリスクを伴わずに対処可能ならそれらの容器を火災区域から移動させること。破裂したエアゾール容器が火災現場から高速で飛び出してくるおそれがある。

消火を行う者を保護するための特別な保護具 陽圧自給式呼吸器 (SCBA) および適切な保護衣を着用すること。

項目6：漏出時の措置

6.1. 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

人体に対する注意事項 潜在的危険有害性について全員に警告し、必要に応じ避難させる。適切に換気すること。蒸気の吸入を避けること。空気汚染が許容レベルを越える場合には承認を受けた呼吸マスクを使用すること。

6.2. 環境に対する注意事項

環境に対する注意事項 砂、土またはその他の適切な不燃材料で流出を封じ込めること。環境への放出を避ける。

6.3. 封じ込め及び浄化の方法及び機材

浄化方法 必要に応じて、手袋、ゴーグル/保護面、呼吸マスク、長靴、保護衣またはエプロンを含む、適切な保護具を着用すること。すべての点火源を排除すること。流出の近くでは喫煙、火花またはその他の着火源は厳禁。適切に換気すること。

6.4. 他の項目の参照

HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, BULK

他の項目の参照 健康危険有害性についての追加情報はセクション11を参照。

項目7：取扱い及び保管上の注意

7.1. 安全な取扱いのための予防措置

使用上の予防措置 適切に換気すること。蒸気/スプレーの吸入と皮膚および眼との接触を避けること。熱、火花および裸火から遠ざけること。熱分解または燃焼した製品は次の物質を含むおそれがある：毒性および腐食性のガスまたは蒸気。

職業衛生全般に関する助言 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

7.2. 混触禁止物質を含む、安全な保管条件

保管上の予防措置 容器を密封して保管する。密閉した、元の容器に入れて乾燥した、涼しくて換気の良い場所に保管すること。

7.3. 特定最終用途

特定最終用途 この製品の意図された使用はセクション1で詳しく述べられている。

Reference to other sections. 混触危険物質（セクション10を参照）から遠ざけて保管すること。

項目8：ばく露防止及び保護措置

8.1. 管理パラメーター

職業ばく露限界値

Additional Occupational Exposure Limits

成分に関する注釈 ACGIH = US Standard. WEL = Workplace Exposure Limits

8.2. ばく露防止

保護具



適切な設備対策

特定の換気装置は必要でない。この製品は適切な換気のない密閉空間内では決して取り扱ってはならない。

眼 / 顔面の保護

リスク評価により眼に接触する可能性が指摘された場合には適切な規格に適合した保護眼鏡を着用しなければならない。リスク評価によりより高度な保護の必要性が指摘された場合を除き、以下の保護具を着用しなければならない：顔面に密着する安全眼鏡。

手の保護

リスク評価により皮膚接触の可能性が指摘された場合には承認された規格に適合した耐薬品性の、不浸透性手袋を着用しなければならない。

その他の皮膚及び身体の保護

飛沫または汚染に対する保護に適した保護衣を着用すること。接触する場合にはエプロンまたは防護衣を着用すること。

衛生措置

特別な衛生基準は推奨されていないが化学製品を取り扱う際には常に優良個人衛生基準を遵守しなければならない。取扱中は飲食禁止および禁煙。

呼吸器の保護

蒸気は空気より重いので、床に沿って移動し容器の底に蓄積するおそれがある。密閉空間内または換気が悪い空間内では、必ず送気式呼吸マスクを着用しなければならない。フルフェースマスクを備えた自給式呼吸装置を着用すること。

項目9：物理的及び化学的性質

9.1. 物理的及び化学的性質に関する情報

外観 透明な液体。

HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, BULK

| | |
|----------------|--|
| 色 | 無色。 |
| 臭い | かすかな臭い。エーテル。 |
| 臭いの閾値 | 情報得られず。 |
| pH | 情報得られず。 |
| 融点 | 情報得られず。 |
| 初留点及び沸騰範囲 | 41°C/106°F @ 101.3 kPa |
| 引火点 | 製品は可燃性/引火性でない。 |
| 蒸発速度 | 情報得られず。 |
| 蒸発係数 | 情報得られず。 |
| 燃焼性 (固体、気体) | 該当しない。 |
| 燃焼又は爆発範囲の上限・下限 | 燃焼/爆発上限界: 14.4 %(V) 燃焼/爆発下限界: 5.0 %(V) |
| その他の燃焼性 | 製品は可燃性/引火性でない。エアゾール着火距離 : none at 0.0 cm |
| 蒸気圧 | 37.9 kPa @ 20°C |
| 蒸気密度 | 3.4 |
| 相対密度 | 1.26 g/cc |
| バルク密度 | 情報得られず。 |
| 溶解度 | 0.3 % 水 @ 20°C |
| 分配係数 | 情報得られず。 |
| 自己発火温度 | 情報得られず。 |
| 分解温度 | 情報得られず。 |
| 粘度 | 0.48 cP @ 20°C |
| 爆発特性 | 情報得られず。 |
| 酸化特性 | 知見なし。 |
| 注釈 | エアゾール |
| 屈折率 | 情報得られず。 |
| 粒径 | 情報得られず。 |
| 分子量 | 該当しない。 |
| 揮発性 | 100% |
| 飽和濃度 | 情報得られず。 |
| 臨界温度 | 情報得られず。 |
| 揮発性有機化合物 | この製品は最大含有量1080g/lのVOCを含んでいる。 |
| UDF Phrase 1 | 製品は可燃性/引火性でない。 |

項目10 : 安定性及び反応性

反応性 次の物質は製品と反応するおそれがある : 強アルカリ。

HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, BULK

| | |
|------------|--|
| 安定性 | 標準周囲温度および推奨条件で使用した場合は安定。 |
| 危険有害性反応危険性 | 重合しない。 |
| 避けるべき条件 | 熱、火花および裸火から遠ざけること。熱分解または燃焼した製品は次の物質を含むおそれがある：毒性および腐食性のガスまたは蒸気。 |
| 混触危険物質 | アルカリ金属。アルカリ土類金属。粉末金属。 |
| 危険有害な分解生成物 | 加熱すると次の生成物を生じるおそれがある：毒性および腐食性のガスまたは蒸気。ハロゲン化炭化水素。フッ化水素 (HF)。二酸化炭素 (CO ₂)。一酸化炭素 (CO)。 |

項目11：有害性情報

11.1. 有害性情報

急性毒性 - 経口

急性経口毒性推定値
(ATE) (mg/kg) 1,810.85

吸入 蒸気は喉/呼吸器系を刺激するおそれがある。単回暴露は次の悪影響を引き起こすおそれがある：咳。呼吸困難。

経口摂取 胃痛または嘔吐を引き起こすおそれがある。吐き気、頭痛、めまいおよび中毒を引き起こすおそれがある。

皮膚接触 製品は皮膚に脱脂影響を及ぼす。アレルギー性接触湿疹を引き起こすおそれがある。

眼接触 一時的な眼刺激を引き起こすおそれがある。

医学的症状 高濃度のガスまたは蒸気は呼吸器系を刺激するおそれがある。過剰暴露に続いて生じる症状には以下が含まれる場合がある：頭痛。疲労。吐き気、嘔吐。

成分に関する毒物学的情報トランス - ジクロロエチレン (trans-DICHLOROETHYLENE)

その他の健康影響 製品が発がん性である可能性を示す証拠はない。

1,1,1,2,2,3,4,5,5,5デカフルオロペンタン (1,1,1,2,2,3,4,5,5,5-decafluoropentane)急性毒性 - 経口

急性経口毒性 (LD₅₀
mg/kg) 5,000.0

生物種 ラット

急性経口毒性推定値
(ATE) (mg/kg) 5,000.0

急性毒性 - 経皮

急性経皮毒性 (LD₅₀
mg/kg) 5,000.0

生物種 ラット

急性経皮毒性推定値
(ATE) (mg/kg) 5,000.0

急性毒性 - 吸入

HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, BULK

| | |
|--|---|
| 急性吸入毒性 (LC ₅₀ 蒸気 mg/l) | 114.0 |
| 生物種 | ラット |
| 急性吸入毒性推定値 (ATE) (蒸気mg/l) | 114.0 |
| <u>皮膚腐食性 / 刺激性</u> | |
| 動物データ | 刺激性でない。ウサギ |
| ヒト皮膚モデル試験 | データの欠如。 |
| 極端なpH | 該当しない。皮膚を腐食しない。 |
| <u>眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性</u> | |
| 眼に対する重篤な損傷性 / 眼刺激性 | 刺激性でない。ウサギ |
| <u>呼吸器感受性</u> | |
| 呼吸器感受性 | データの欠如。 |
| <u>皮膚感受性</u> | |
| 皮膚感受性 | 感受性でない。 - モルモット: 感受性でない。 |
| <u>生殖細胞変異原性</u> | |
| 遺伝毒性 - in vitro | この物質の変異原性を示す証拠はない。 |
| 遺伝毒性 - in vivo | この物質の変異原性を示す証拠はない。 |
| <u>発がん性</u> | |
| 発がん性 | 公知の発がん物質を一切含まない。 |
| IARC発がん性 | 記載されていない。 |
| <u>生殖毒性</u> | |
| 生殖毒性 - 生殖能 | 動物実験における生殖毒性の証拠はない。 |
| . | |
| 皮膚接触 | 推奨事項に従って使用すれば皮膚刺激は生じない。皮膜の脱脂を引き起こすおそれがあるが刺激性ではない。 |
| 眼接触 | 眼刺激を引き起こすおそれがある。 |
| 急性及び慢性健康危険 | 製品が発がん性である可能性を示す証拠はない。 |

エタノール (ETHANOL)

| | |
|--|------------------------------|
| <u>急性毒性 - 吸入</u> | |
| 急性吸入毒性 (LC ₅₀ 蒸気 mg/l) | 20,000.0 |
| 急性吸入毒性推定値 (ATE) (蒸気mg/l) | 20,000.0 |
| <u>発がん性</u> | |
| IARC発がん性 | IARC グループ1 ヒトに対する発がん性が認められる。 |

HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, BULK

成分に関する生態学的情報

トランス - ジクロロエチレン (trans-DICHLOROETHYLENE)

生態毒性 水生生物に対する急性毒性は低い。

1,1,1,2,2,3,4,5,5,5デカフルオロペンタン (1,1,1,2,2,3,4,5,5,5-decafluoropentane)

生態毒性 物質が水中で魚やミミズに有害な影響を及ぼすほどの大きさで溶解することは考えにくい。

毒性 水生生物に猛毒性がある。

成分に関する生態学的情報

トランス - ジクロロエチレン (trans-DICHLOROETHYLENE)

急性毒性 - 魚類 LC₅₀, 96 hours: 1350 mg/l, 魚類

急性毒性 - 水生無脊椎動物 EC₅₀, 48 hours: 220 mg/l, Daphnia magna (オオミジンコ)

1,1,1,2,2,3,4,5,5,5デカフルオロペンタン (1,1,1,2,2,3,4,5,5,5-decafluoropentane)

急性毒性 - 魚類 LC₅₀, 96 hours: 13.9 mg/l, Onchorhynchus mykiss (ニジマス)

急性毒性 - 水生無脊椎動物 LC₅₀, 48 時間: 11.7 mg/l, Daphnia magna (オオミジンコ)

急性毒性 - 水生植物 EC₅₀, 72 hours: >120 mg/l, 藻類

エタノール (ETHANOL)

急性毒性 - 魚類 LC₅₀, 96 hours: >10,000 mg/l, 魚類

急性毒性 - 水生無脊椎動物 EC₅₀, 48 hours: 7,800 mg/l, Daphnia magna (オオミジンコ)

急性毒性 - 水生植物 , 96 時間: 1000 mg/l, 淡水藻類

12.2. 残留性・分解性

成分に関する生態学的情報

エタノール (ETHANOL)

残留性・分解性 製品は生物分解性であると予想される。

12.3. 生体蓄積性

生体蓄積性 生体蓄積性について利用可能なデータ無し。

分配係数 情報得られず。

成分に関する生態学的情報

トランス - ジクロロエチレン (trans-DICHLOROETHYLENE)

生体蓄積性 この製品の溶解性は低いため生体蓄積性が重大である可能性は低い。

1,1,1,2,2,3,4,5,5,5デカフルオロペンタン (1,1,1,2,2,3,4,5,5,5-decafluoropentane)

生体蓄積性 この製品の溶解性は低いため生体蓄積性が重大である可能性は低い。

分配係数 Pow: 2.7

HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, BULK

エタノール (ETHANOL)

生体蓄積性 生体蓄積する可能性は低い。

分配係数 情報得られず。

12.4. 土壤中の移動性

移動性 製品は大気中に広がるおそれのある揮発性物質を含む。

成分に関する生態学的情報

トランス - ジクロロエチレン (trans-DICHLOROETHYLENE)

移動性 製品の水溶性は低い。

エタノール (ETHANOL)

移動性 製品は水に溶解する。

12.6. 他の有害影響

他の有害影響 製品は世界的温暖化 (温室効果) に関与する物質を含む。

項目 13 : 廃棄上の注意

13.1. 廃棄上の注意

一般情報 廃棄物は規制された廃棄物として取り扱わなければならない。現地の廃棄物管理当局の規定に従い認可された廃棄物廃棄物投棄地点に廃棄物を廃棄すること。

廃棄方法 現地の廃棄物管理当局の規定に従い認可された廃棄物廃棄物投棄地点に廃棄物を廃棄すること。

項目 14 : 輸送上の注意

一般事項 規制されていない。製品は危険物の輸送に関する国際規則 (IMDG、IATA、道路輸送/鉄道輸送) の適用範囲に含まれない。

14.1. 国連番号

14.2. 品名 (国連輸送名)

品名 (国連輸送名) (道路輸送/鉄道輸送) Not Hazardous Not Regulated

品名 (国連輸送名) (IMDG) Not Hazardous Not Regulated

品名 (国連輸送名) (ICAO) Not Hazardous Not Regulated

14.3. 国連分類 (輸送における危険有害性クラス)

該当しない。情報は要求されていない。

14.4. 容器等級

情報は要求されていない。

14.6. 使用者のための特別予防措置

該当しない。情報は要求されていない。

HEAVY DUTY FLUX REMOVER - SUPRCLEAN, BULK

MARPOL73/78 附属書II及び IBCコードによるばら積み輸送 該当しない。情報は要求されていない。

項目15: 適用法令

項目16: その他の情報

| | |
|------------|--|
| 改訂に関する注釈 | 備考: 余白中の線は以前の版からの重大な変更を示している。 |
| 改訂日付 | 2017/08/07 |
| 改訂版 | 37 |
| 破棄日付 | 2017/08/03 |
| SDS番号 | BULK - SPR |
| SDSの現状 | 承認済み。 |
| 危険有害性情報の全文 | H225 引火性の高い液体及び蒸気。 H302 飲み込むと有害。 H332 吸入すると有害。 H412 長期継続的影響によって水生生物に有害。 |

この情報は明示されている特定の物質のみに関連するものでありこの物質を他の何らかの物質と併用したり何らかのプロセスに使用した場合には有効でない場合があります。上記の情報は、弊社の知識および確信のおよぶ限り、標示されている日付の時点において正確かつ信頼性の高い情報です。しかしながら、その精度、信頼性または完全性に関して一切の保証、補償あるいは表明を行うものではありません。各自の特定用途に対する上記情報の適合性に関して確認を行うことは使用者の責務です。